



さいで発見! vol.4 「地神社の井戸」

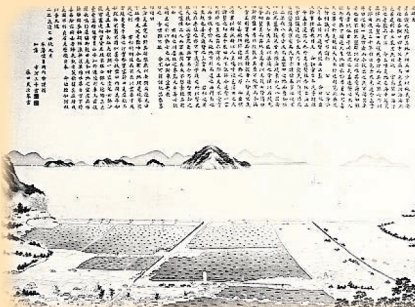
文政12年(1829年)、久米通賢により115ヘクタールの塩田と、116ヘクタールの畑地(坂出墾田)が造られました。

坂出墾田以前は、集落数300戸、人口千余人でしたが、約30年後には4倍強に増えたそうです。この時困ったのは飲料水の問題でした。そこで弘化年間や嘉永年間打ち抜き井戸を掘りましたが遠浅の海を埋め立てての開発であったため、塩分が混ざっていて飲料用にはなりません。通賢も上水道を敷設する計画も立てていましたが、墾田の終了とともに任を解かれたため、実現には至りませんでした。

後の安政2年(1855年)宮崎駒吉氏の発起で通賢の計画をもとに簡易水道を完成させました。角山(津ノ山つやま)北麓にある宮崎幾三郎宅の大堀の水源地から、木や竹の管を使い、坂出小学校東側を通して、塩釜神社(現在の市立病院北側)の明神井戸に到着する640間(1.1km超)の長さの水路を作り、村民や塩田で働く人たちの飲料水に用いました。

塩竈神社は明治36年(1903年)、旧国道11号線(現在県道33号線)の敷設で南北に分断され、その後昭和39年(1964年)、現在の聖通寺山中腹に移設されました。元あった場所は塩田の脇にあり、祭りの際には、市が立ち非常に賑わっていました。

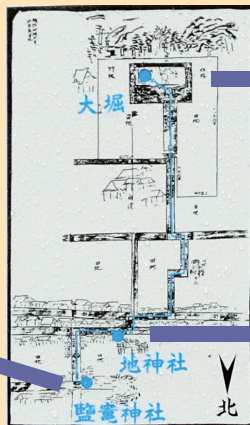
地神社の井戸は安政3年(1856年)に埋桶を分岐して設置したものです。



「坂出墾田碑文の図」 提供:坂出市立大橋記念図書館



昭和15年(1940年)皇紀2600年を祝して賑わう塩竈神社境内



水道埋桶配置図(明治44年改修時)

現在の様子



現在の地神社にある井戸の跡地です。

※参考文献「坂出市史」(通史、及び年表)
「坂出・写真集」(発行:鎌田醤油・鎌田共済会)

編集後記

田植えシーズンも終え、郊外では田んぼのカエルや蝉の音がせわしく聞かれます。

今年は、瀬戸大橋開通30周年やワールドカップなど坂出にとっても日本にとっても話題豊富な年であります。

是非、これを契機に坂出に今一度、活気と賑わいを取り戻さなくてはなりません。

本市の最重要課題である、人口増対策を今一層取り組み「明日を担う子供たち」のためにも、夢が咲く坂出市を目指し、我々もなお一層の研鑽を重ねていかなければなりません。市民皆様の幸せのために! (楠井)

広報広聴委員会 委員長……植原 泰 副委員長……若杉輝久
委員……東原 章 鳥飼年幸 村井孝彦
出田泰三 松成国宏 楠井常夫

表紙の写真

上:「海の仲」坂出高等学校3年 小林 由奈さん

沙弥島で遊んでいることもたちを撮影した1枚です。その様子はとても気持ちよさそうで、そして楽しそう。また、彼女たちの仲の良さも伝わってきて、撮影している私にも元気を与えてくれました。

下:「わっはっは〜!!」

坂出高等学校2年 岩崎 菜奈さん

瀬戸大橋の袂に行われた笑いヨガのイベントにて、「わっはっは〜!!」と大きな声を出して笑う女性を撮影しました。どこを見てもみんな笑顔で、会場は温かい雰囲気になっていました。

次回開催は…
9月定例会を9月上旬に開催予定です。

